

令和4年度だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業



# 避難所開設訓練

2022



# ダイジェスト



# 《 だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業 》

大仙市教育委員会事務局 教育指導課

## 本事業でねらう3本の柱

- 「自分の命を自分で守る子ども」の育成
- 小・中学生によるだいせん絆プロジェクト
- 自主防災組織づくりから広げる地域力の向上

## 防災教育に関わる市内小・中学校の主な取組 【これまでの取組】

### ～ I・支援と交流 ～

- ①被災地支援  
＜全小・中学校＞
  - ・募金・米・文房具などの送付
- ②被災地訪問による交流  
＜市内2中学校、1小学校(R3)＞
  - ・プランター花のプレゼント
  - ・メッセージポスターとメッセージ団扇のプレゼント
- ③中学生サミットによる支援
  - ・ヘルメットや図書の寄贈、被災地訪問による交流と学習会
  - ・交流活動の報告会

### ～ II・国や市の事業 ～

- ①H23 福島っ子との交流事業  
市内5小学校、3地域
  - ・冬祭りへの参加や音楽交流、郷土料理体験
- ②H23～H25復興教育支援事業  
(文部科学省指定) <大曲中>
  - ・創作花火の打ち上げや鉢花贈呈、若竹町内会との合同避難訓練
- ③避難所開設訓練  
H25 平和中 H26 大曲西中 H27 西仙北中  
H28 仙北中 H29 太田中 H30 大曲南中  
R1 豊成中 R2 南外中 R3 協和中
- ④市総合防災訓練への参加  
H23中仙地域 H24南外地域 H25協和地域  
H27太田地域 H28大曲地域 H29県冬季防災訓練  
R1西仙北地域 R2千畑地域 R3仙北地域

### ～ III・計画等の整備 ～

- ①「学校安全計画」「危機管理マニュアル」「防災教育年間指導計画」等の整備
  - ・整備の実態把握と改善
- ②「大仙市版・避難所開設・運営マニュアル」の提供
  - ・総合防災課との連携による作成
- ③各学校における緊急連絡体制の整備
  - ・「だいせんこども安全安心メール」等による電子メール配信システム整備

## 【課題】

- ★地域の実態に即した避難所開設の在り方
- ★自主防災組織と連携した防災活動
- ★感染症拡大防止に配慮した避難所開設の在り方

# 【今後の方向性】令和4年度の計画

## ～ I・交流の継続と充実 ～

被災地との交流

<市内2中学校、1小学校>

- ・ 平和中・神岡小⇄大槌町（吉里吉里地区仮設住宅）
- ・ 太田中 ⇄大槌町（大槌学園）

## ～ II・国や市の事業 ～

①市総合防災訓練

② **だいせん防災教育  
「生き抜く力育成」事業**

## ～ III・計画等の整備 ～

「危機管理マニュアル」等の見直しと改善

### だいせん防災教育「生き抜く力育成」事業

実施予定日	令和4年11月11日（金）
実施場所	大仙市立中仙中学校 校舎
参加者	中仙中学校全校生徒及び教職員 地域自主防災組織代表住民 市内中学校生徒代表及び教職員 消防署等の関係機関 等
主催	大仙市教育委員会事務局教育指導課及び総合防災課

#### ～主な活動～

- ①生徒避難
  - ②避難所開設
  - ③地域住民避難
  - ④避難所運営
  - ⑤避難者への食事の提供
- ・モデル校の実践として、地震発生時の避難訓練、避難所開設に関わる初期対応の実際を体験させる
  - ・地域住民との防災訓練及び体験を通して、自助から共助へと主体的に行動する力を身に付けさせる

## 事業による成果を生かす

「総合的な学力」を身に付け、「自分の命は自分で守る」児童生徒の育成に“つなげる”  
中仙地区の防災モデル実践の成果を大仙市内全域に“広げる”

小・中学生が主体的に社会参画する地域づくりへ

令和4年度

# 「だいせん防災教育『生き抜く力育成』事業」避難所開設訓練

大仙市立中仙中学校

## 1 ねらい

- (1) 地域の地理的条件を踏まえ、大雨、洪水発生時の避難所開設に関わる初期対応の実際を体験し、災害時の迅速かつ適切な行動や避難所開設に係る役割や支援の方法を身に付ける。
- (2) 学校、地域住民（地域自主防災組織）、関連機関との協力体制を確認するとともに、連携した訓練を通して、自助から共助へと主体的に行動する力及び防災に対する高い意識を身に付ける。
- (3) 災害状況の把握や避難者への即時対応にICT機器やドローンを活用し、避難者の心に寄り添った避難所運営を行うとともに、地域の一員としての役割を自覚し、主体的に開設・運営に参画する態度を育む。

2 実施日時 令和4年11月11日（金）8：40～11：30

3 場 所 中仙中学校 体育館及び校舎内（教室棟2階）  
<川の水位 0.5m～3mの避難箇所>

4 参加者 中仙中学校生徒、中仙中学校教職員、大仙市教育委員会事務局指導課職員  
ワイワイらんど園児、ワイワイらんど職員

5 想定内容 台風が近づき前線の影響が心配されたが、11月2日（火）朝は天候も比較的落ち着いており、生徒は登校し通常通り学校で過ごしていた。登校後9時頃より線状降水帯が発生し雨が激しく降り出した。齊内川の水位も急激に上昇し始め、支流の小滝川は氾濫危険水位に到達した。大雨によってあふれた水で周辺の道路、田畑が水につかってしまい、更に側溝の排水が追いつかず家屋が水につかってしまう内水氾濫が発生した。気象庁は停滞する前線の影響で、引き続き大仙市周辺が記録的な大雨となり、非常に激しい雨が降るおそれや土砂災害や川の氾濫に厳重に警戒が必要と発表している。  
そのため、大仙市災害対策本部から市内一部地域に避難指示が出されるとともに、中仙中学校にも避難所開設要請があり、避難所を開設することとなった。生徒は安全確保のために中仙中学校にとどまり、避難所の開設・運営に協力する運びとなった。

## 6 生徒に身に付けさせたい力（評価の観点）

- (1) 避難所開設・運営に必要な役割や協力・支援の方法を身に付けようとしている。  
(地域を知り災害に備える力)
- (2) 他と協力しながら主体的に活動し、発災時にたくましく生き抜く力を身に付けようとしている。  
(発災時に生き抜く力)
- (3) これまでの避難所開設に伴う活動を通して、地域の一員としての役割を自覚し、主体的に開設・運営に参画している。  
(社会に参画する力)

## 7 活動の様子

### 【各班の活動】



【ボランティア班】



【情報・広報班】



【総務班】



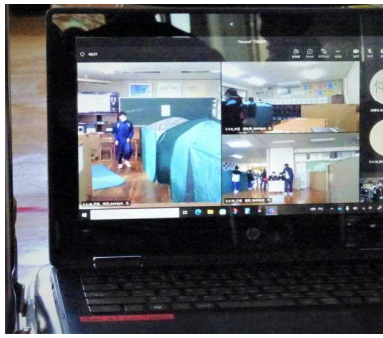
【物資管理班】



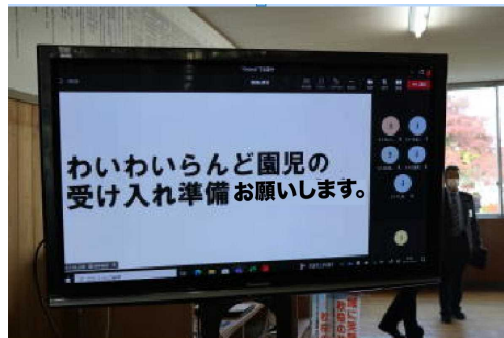
【救護班】

### 【情報環境づくり】

各部門が同時に情報を共有できるよう生徒用タブレット端末や大型モニターを使用した。ドローンでの撮影を行い、避難者の様子や天候状況をリアルタイムで各班に発信することができた。



Teamsで情報共有



【大型モニターで情報提示】



【ドローンで周辺の状況を把握】

### 【心的環境づくり】

避難者が安心して過ごせるよう自分たちでアイディア(避難者誘導矢印、更衣室、授乳室、充電コーナー、相談室、ペットの保護場)を出し合い、より快適な環境作りに取り組んだ。



【土嚢づくり】



【救命ボート】



【生徒主体の打合せ】



【園児を安心させるための読み聞かせ】



避難者受付【タブレット端末使用】



パーティションの入り口の向きの工夫

### 【災害食の備蓄と試食】

ローリングストック法による災害食を備蓄し試食した。事前に栄養教諭より災害時は野菜不足になることを聞き、野菜ジュースやトマトジュースを準備する生徒も多かった。災害食の量や種類、バランスを考えるよい機会となった。



【災害食（カンパンや野菜ジュース）】

## 8 成果と課題

生徒の振り返りからは「家が川沿いにあり 油断せずに危機感もち過ぎたい」「最新の情報をよく聞き次の行動を考えたい」「いざという時の見通しがもてた」など、防災意識の高まりや広がりを感じた。生徒が残っている場合は生徒の避難スペースの確保や避難が長期間となる想定もしておくべきであった。災害時にはマニュアルがあると混乱や不安が解消されるため、様々な災害を想定した基本マニュアルを整えておくようにしていきたい。本校は校舎が斉内川の隣に建っており、美しい景色と裏腹に危険な一面も持ち合わせている。もしもの時には今回の経験を生かし、地域のために力を発揮できる人になってくれるものと思っている。

# 令和4年度「大曲中学校 地域合同防災訓練」

## 1 ねらい

- (1) 地震の性質やそれに伴う災害を考え、安全な行動がとれるよう、態度や習慣を育てる。
- (2) 災害時において、冷静かつ迅速に的確な行動がとれるようにする。
- (3) 地震の発生を想定し、地域住民と中学生・防災関係者が一体となって避難訓練及び実践的な応急対策活動等の訓練を実施することにより、総合的な防災体制の確立及び意識の高揚を図ることができるようにする。

2 実施日時 令和4年10月14日(金)

## 3 実施場所

大曲中学校 校舎内及び校地内周辺

## 4 参加者

大曲中学校生徒(746名)  
教職員(53名)  
大仙市総合防災課  
大仙市消防本部  
自衛隊秋田地方協力本部

## 5 実施内容

○訓練1(地震避難…1・2・3年生・職員)

10月14日(金)午前8時55分、緊急地震速報が発表され、秋田県沖を震源とする強い地震が発生し、大仙市でも震度5強から6の非常に強い揺れが30秒ほど続き、さらに火災が発生したという想定で実施した。緊急放送で生徒に避難指示をし、一斉に体育館に避難した。

○訓練2～3(煙道体験、初期消火…1年生)



火災発生時の煙道避難と火災発生後の初期消火活動(水消火器)を1年生全員が体験した。



○訓練4(成田防災管理監による講演…2年生)

成田防災管理監から、地域の防災と河川の増水による災害や対策方法を聞き、防災に対する意識を高め、災害時の行動について考えた。



○訓練5(地震体験…2年生)

地震体験車に乗り、強い揺れを体験した。



○訓練6(避難所開設…3年生)

「訓練1（避難訓練：地震想定）」に引き続き、若竹町周辺地域の家屋が全壊または半壊し、大仙市より避難指示や避難勧告が発令され、さらに大曲中学校を避難所として開設するよう市長より指示があったことを想定し、避難所開設を行った。



○訓練7（心肺蘇生CPRとAED…3年生）  
消防署員と地域の女性消防団員から心肺蘇生CPRとAEDの使い方を習った。



○訓練8（災害緊急車両体験…全校生徒）  
自衛隊の装備や車両を見学した。



## 6 訓練を終えて

今年度も感染症拡大の影響で若竹町内会の参加を見送ったが、新たに自衛隊に協力いただいた。行政、消防、自衛隊そして地域が共同し、いざというときに連携して活動する意義について、生徒の意識が高まったと感じている。来年度は大仙市の避難所開設訓練が本校で行われる。今回の経験を生かして、生徒の防災意識を高め、「自分の命を自分で守る」ために「自ら行動できる」生徒を育てていきたい。

## 守りと攻めの防災教育 平和中 11年目の取組

### 「守り」の防災 避難所開設訓練

- 期 日 令和4年7月8日(金)
- 対 象 平和中学校生徒・教職員・地域住民
- 想定内容

7月8日(金)12時30分頃、西仙北地域を震源とする直下型の強い地震が発生し、大仙市地域で震度6を記録した。神岡地域の家屋150世帯が全壊または半壊し、各避難所に市民が集まった。倒壊を免れた平和中学校にも避難者が集まり、避難所を開設することとなった。平和中学校では、昼休みの時間に地震が起こった。そのため、生徒の身の安全確保のために平和中学校にとどまり、避難所の開設・運営に協力する運びとなった。

#### □活動の様子



【避難時、グラウンドへ体調不良者を搬送】



【避難所開設直後の体育館】



【避難者への体調の聞き取り】



【避難者の血圧測定】



【非常食の準備】



【神岡支所長からの講評】



## 「攻め」の防災 被災地交流

2022年7月、岩手県大槌町公民館吉里吉里分館へ、神岡小学校で作成した「手作りメッセージ団扇」と平和中学校で作成した「交流ポスター」をお届けした。実際に人の往来はないものの、現在もこのように、吉里吉里地区の皆さんとの交流は続いている。



【神岡小から手作りメッセージ団扇を預かりました】



【平和中作成 交流ポスター】

## 地道な安全教育が高く評価される

### ～令和4年度安全功労者内閣総理大臣表彰受賞～

令和4年7月1日（金）、首相官邸において、安全功労者内閣総理大臣賞表彰が行われた。ふるさとや地域に寄与できる生徒の育成を目指し、保護者や地域と一体になった「守りと攻めの防災教育」を学校教育の柱に据えた、11年間にわたる本校の安全教育が認められた。



【松野官房長官からの授与】



【授与後、賞状、盾とともに】



大仙市教育委員会  
Daisen City Board of Education